

ダイワコーポ

# 「横浜本牧第2営業所」を開設

## 地区での存在感アップ



SPC（特定目的会社）が保有する物件。首都高速湾岸線本牧ふ頭ICから約500mに立地し、延床面積約2万6000㎡の鉄骨造の地上6階建て（倉庫部分は5層）。このうち約1万7000㎡をダイワコーポが10月から賃借した。

営業所新設について曾根社長は「空いて

いる倉庫があった方が社員も営業のモチベーションが沸

く。また、山下ふ頭の

再開発に際し、倉庫移

転に伴うスポット需要

も見込まれる。『横浜

本牧営業所』の顧客

である輸入食材販売会

社の、調達物流の拠

点をサテラ

イト的に確保しておく狙いがあった」と話す。

「横浜本牧営業所」から車で5分程度に位置するため、従業員を相互融通しやすい利点もある。第2営業所は基本的には賃貸でなく、ダイワコーポの自営の物流拠点として運用していく方針。なお、大型案件の獲得などでフル稼働の時期が早まれば、新たな拠点を確保したい考えにある。

ダイワコーポでは今年度から3カ年の中期経営計画に取り組

ダイワコーポレーション（本社・東京都品川区、曾根和光社長）では、「横浜本牧第2営業所」（横浜市中区、写真）を開設した。2016年1月に営業開始した「横浜本牧営業所」（延床面積約7万㎡）がフル稼働しているため、同地区で拠点拡充を図ったもの。横浜港本牧・南本牧地区、隣接する新山下地区における同社の管理面積は約14万2000㎡超となり、存在感が一層高まった格好だ。

「横浜本牧第2営業所」は2000年6月に竣工し、現在は物流不動産ファンドが出資する

んでおり、最終年度に売上高150億円、経常利益10億円を目指している。来年4月には新た

な人事制度をスタートさせるほか、SaaS型のWMS（倉庫管理システム）への刷新も予

定。新拠点の確保と併せ、経年化した施設のスクラップ&ビルドも検討していく。

### 物流データ 普通倉庫21社統計(2017年9月)

対前月比数量では入庫高・出庫高・保管残高ともほぼ横ばいだったが、入庫高では雑穀、水産品などが増加となった。対前年同月比は荷動きの回復を反映し全体的に増加傾向となり、鉄鋼などが増加した。

普通倉庫21社実績 2017年9月

		対前月比	対前年比
入庫高	数量	235 ▲0.3	7.9
	金額	10,803 5.4	9.5
出庫高	数量	234 ▲2.7	3.4
	金額	10,548 4.0	2.3
保管残高	数量	488 0.1	2.0
	金額	24,424 1.1	9.3

単位：万トン、億円、%（国交省統計調査より）